三浦市立南下浦中学校　　令和元年度　重点１

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○自ら主体的に学ぶ生徒を育てる。
目標（評価規準）		①授業に意欲的に取り組んでいる。 ②家庭学習が定着する。 ③B基準を下回る生徒の割合が減少する。 ④B基準を上回る生徒の割合が増加する。
重点に係る現状 設定理由		学習に対する目標を明確化・具体化し，その意義を踏まえながら向上心を持って取り組める生徒の育成を目指したい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善」について，ある程度成果が出てきたと感じている職員は100％でした。 ○「家庭学習を習慣化させる取り組み」について，ある程度成果が出たと感じている職員は81％でした。 ○「B基準に達しない生徒への指導の工夫」について，ある程度成果が出たと感じている職員は95％でした。 ○「より質の高い学習姿勢を育むための指導の工夫」について，ある程度成果が出たと感じている職員は95％でした。
各アンケート等の結果	〈生徒のアンケート〉 (ｱ)「授業への取り組み姿勢」については，各学年とも非常に意欲的に取り組めているとの回答が30～40％，「まあまあ」を含めた肯定的な回答が約90％でした。 (ｲ)「家庭学習に取り組む習慣」については，肯定的な回答は１・3年生が約60％，２年生が約45％で，全体的にやや低調な数字でした。しかし，「成績向上のための努力」という問では肯定的な回答が80％～90％で，多数の生徒が努力しているという結果でした。 (ｳ)「学校の先生は，あなたの成績を向上させるため，勉強のやり方などについて具体的にアドバイスや励ましをしてくれますか。」の設問には，１・２年生が約80％，３年生の約90％が肯定的な回答でした。 〈保護者のアンケート〉 (ｱ)「お子さまは授業に意欲的に取り組んでいると思いますか。」の問いには，肯定的な回答が，１年生88％，２年生83％，３年生85％がという結果でした。 (ｲ)「家庭学習に取り組む習慣」については，肯定的な回答が１年生57％，２年生55％，３年生71％で３年生は生徒より高い結果でした。また，「成績向上のための努力」では，肯定的な回答が70～80％で，生徒自身の回答結果より保護者の方々は，若干厳しい見方をなされている傾向が見られました。 (ｳ)「学校の指導で，生徒が学習に意欲的に取り組むようにするための工夫が行われていますか。」の問いについて肯定的な回答は64～73％で，ほぼ昨年度(62～77％)と同様の結果でした。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○継続して取り組んでいる職員の校内研究において，昨年度同様に「学力の三要素でつくる授業」をテーマとして，「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に取り組む態度」の３つの側面を意識した授業づくりに取り組み，また，令和３年度から完全実施となる新学習指導要領に盛られている学力も視野に入れながら，自ら学ぶ力の醸成や課題解決能力の育成をめざしました。１・２学期に各１回ずつ校内研究授業を実施し，県や市の教育委員会から指導主事を招いて研究協議を行って，授業改善に取り組みました。 ○指導法改善の取組を今年度も継続しました。数学の授業については，全学年すべての時間に教員を割り当ててＴＴ(ティームティーチング）の授業形態とし，また，数学以外でも各学年の理科と英語で週１～２時間のＴＴを行いました。学習内容につまずきのある生徒への支援や質問しやすい環境作りという点で効果があったと考えます。
学校関係者評価結果	○授業を見せていただき，生徒達の非常に落ち着いた真剣に学ぶ姿勢が大変すばらしく，また，授業をしている先生方との人間関係にも暖かいものを感じた。重点目標にかかわらず，生徒達が力一杯活き活きと，そしてたくましくのびのびと活躍している姿が学校の原点である。今後も活気のあふれる南下浦中を期待したい。 ○「主体的に学ぶ」或いは「生きる力」，「自ら考える力」を身につけさせるという方向性には大いに賛同する。自分の仕事に関連した行政（特に国レベル）の施策を思うに，乱暴な言い方だが「知識は豊富だが現場に生かしきれない役人」という思いが否めない。いわゆる知識を定着させるだけではなく，頭を使って考えたり活かしていける学力の育成を期待したい。
最終改善方策	○以前から重点目標の第一に掲げており，校内研究としても取り組んでいることで，学校全体としてよりよい授業づくりに向けた意識の高まりが見られる一方で，新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業や指導への研修はまだまだこれからです。学校としての組織的な校内研究と，先生方個々の教科指導・授業づくりについての自己研鑽をともに充実させ，授業力を高めていくことを目指したいと考えます。 ○三浦市教育委員会ではここ数年，『学びづくり推進地域研究委託事業』に市内全小中学校で取り組んでいます。次年度も継続されるということなので，引き続き市全体の事業と連携しながら研究を深め，他校との実践を互いに共有する機会も生かしながら，学習指導の充実を図っていきたいと思います。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○一人ひとりに高い人権感覚を身に付けさせ，道徳的判断力・実践力を養う。
目標（評価規準）		①礼節をわきまえ，時と場に応じた言動をとる。 ②きまりの意義を理解し，遵守して，学校の秩序や規律を高めようとする。 ③互いの個性を認め合い，尊重しあった言動をとる。 ④暴力暴言，いじめ，からかいが許されない環境ができている。 ⑤自己肯定感を持って生活できている。
重点に係る現状 設定理由		常に人権感覚を持ち，これを磨きながら，他者理解と自尊感情にもとづいて自他を尊重し，寛容や助け合いなど，豊かな心を持つ生徒の育成を目指したい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「礼節をわきまえ，時と場に応じた言動がとれる態度の育成についての成果」では，肯定的な回答が100％でした。 ○「きまりの意義を理解し，遵守にして学校の秩序や規律を高めようとする態度の育成についての「成果」では，肯定的な回答が100％でした。 ○「集団の一員としての自覚と奉仕の精神を持ち，協力的な言動がとれる態度の育成についての成果」では，肯定的な回答が100％でした。 ○「暴力暴言・いじめ・からかいが許されない環境をつくることについての成果」では，100％が肯定定的な回答でした。
各アンケート等の結果	〈生徒のアンケート〉 (ｱ)「時と場に応じた礼儀や言葉遣い」，「きまりの意味を理解し守っている」，「周りの人に対して協力的な発言や行動」については，どの学年も肯定的な回答が90％を上回りました。 (ｲ)「暴力・暴言・いじめ・からかいが許されないと自覚して生活できていますか」の設問に対しては，どの学年も95％前後の生徒が肯定的な回答で，特に「Ａそう思う」は１年生が76％，２年生が71％，３年生が74％の割合でした。 〈保護者のアンケート〉 (ｱ)「時と場に応じた礼儀や言葉遣い」，「きまりの意味を理解し守っている」，「周りの人に対して協力的な発言や行動」については，生徒と同様に各学年とも90％以上が肯定的な回答でした。 (ｲ)「学校は暴力・暴言・いじめ・からかいを許さない環境づくりに取り組んでいるか」の設問では，１年生79％，２年生82％，3年生89％の方が肯定的な回答でした。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○今年度から実施された「特別の教科　道徳」に対し，昨年度の道徳教育実践推進校の指定研究の成果を踏まえて，学級担任だけでなく，副担任も含めた全職員で道徳授業の実践を進めました。 ○ブラインドサッカー教室やいじめをテーマとした講演会など，講師を招いての人権教育や人権作文への取組を行い，あわせて日常の学年・学級経営での人権感覚の高揚・啓発を進めながら目標に迫りました。
学校関係者評価結果	○道徳の教科化についていろいろと聞いてはいるが，先般のやまゆり園での事件とその裁判から，やはり「いのちの尊厳」について，我々も改めて考えさせられるところである。また，中高生を含む自死の問題もメディアで目にすることが少なくない。道徳教育・人権教育に際しては様々な視点や題材があると思うが，究極は「（自他の)いのちの尊厳」の一点に収束されるのではないか。国や県も力を入れているようだが，南下浦中でも是非この点に改めて力を入れ，取組を充実させて欲しい。 ○女子の制服のスラックスについては，他の地域でもあると聞いている。多様性の尊重は昨今大切な視点のひとつであり，重点目標の３とも関連して，それぞれの個性を伸ばす指導，そしてそこから何かに特化した人を育てていくという考え方や方向性も踏まえつつ，取組を進めてもらいたい。
最終改善方策	○今年度スタートした「特別の教科　道徳」の取組に関し，教科書を使った授業展開，副担任も含めたローテーション道徳，道徳の評価の方法などについての成果や課題をより明確にしながら，次年度の道徳授業の工夫改善を図り，生徒の道徳的判断力・実践力をより高めることをめざしたいと考えます。 ○多様な個性を尊重し，互いに認め合っていくという意識・感覚の醸成は，昨今の社会において大変重要な視点となっています。こうしたことを踏まえ，例えば次年度４月から，女子生徒の標準服について，ジャンパースカートまたはスラックスを選択できるようにしましたが，このように，学校の教育活動において職員自らも人権感覚を常に磨きながら生徒達に公的な人としての言動を教えていく必要があると考えています。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○自らの社会的自立に向けた生き方を考え，基盤となる能力や態度を育てる。
目標（評価規準）		①望ましいコミュニケーションと集団生活ができる。 ②自己の特性を理解し，学校生活の諸活動に生かそうと努力する。 ③学校生活における諸課題に対し，具体的に解決を図ろうとする。 ④将来の生き方を見据えながら，情報収集や学習に意欲的に取り組む。
重点に係る現状 設定理由		自己の個性や特性を正しくとらえ，将来の生き方を見通しながら，望ましい集団生活やコミュニケーションができ，諸課題の解決を図りながら，社会的に自立していける生徒の育成を目指したい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「望ましいコミュニケーションと集団生活ができていることについての成果」では、肯定的な回答は95%でした。 ○「自己の特性を理解し，学校生活の諸活動に活かそうと努力する態度の育成についての成果」では，肯定的な回答は100%でした。 ○「学校生活における諸課題に対し，具体的に解決を図ろうとする態度の育成についての成果」では，肯定的な回答は100%でした。 ○「将来の生き方を見据えながら，情報収集や学習に意欲的に取り組む態度の育成についての成果」では，肯定的な回答は95%でした。
各アンケート等の結果	〈生徒のアンケート〉 (ｱ)「班やグループの話し合いで意見や気持ちを伝え合うことができていますか」では，各学年ともに90%弱が肯定的な回答で，学年による差はほとんど見られませんでした。 (ｲ)「自分の良さを理解し，活かそうと努力していますか」，「学校生活の課題について具体的に解決しようと努力していますか」については，２・３年生は約85%前後，１年生は75%が肯定的な回答でした。また，「Ａそう思う」の回答の割合も２・３年生が１年生より約10%高い傾向が見られました。 (ｳ)「自分の将来を考えて進路学習や職業学習に意欲的に取り組めていますか」の設問では，肯定的な回答が３年生90%，２年生81%，1年生77%で，学年が上がるほど意欲が高い傾向が見られました。 〈保護者のアンケート〉 (ｱ)「お子さまは，コミュニケーションの能力が育っていますか」，「お子さまは自分の良さを理解し，活かそうと努力していますか」，「お子さまは，諸課題に対して具体的に解決しようとする態度が見られますか」については，約80～90%が肯定的な回答で，昨年度より若干高い結果でした。 (ｲ)「お子さまは将来を考えて進路学習や職業学習に意欲的に取り組む態度が見られますか」については，肯定的な回答が１年生62%，２年生63%，３年生84%で，生徒の結果と同様に上級学年に進むほど肯定的な回答の割合が高い顕著な結果でした。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○総合的な学習の時間に生き方や進路，自己の特性等に関する単元を設定し，職業調べ，職業講演会，職場体験，具体的な進路選択に関わる内容等，将来に向けた学習の取組を進めました。 ○学級活動や行事への取組などにおいて，集団の中でのコミュニケーションや自分(たち)で課題解決を図れるような場面設定をできる範囲で工夫してきました。 ○各学年の段階に応じて，高校進学に関わって，近隣の高校の特色，神奈川県の公立入学者選抜のしくみ，面接に関する内容等について学習をすすめてきました。
学校関係者評価結果	○就職氷河期と言われる世代の方々を見ると，もちろん学力が基本であることは間違いないが，自主性，粘り強さといった社会に出るのに大切なことが欠けていたり，夢が無かったりするように思う。自分のところでも他市の中学生を職場体験で受け入れており，わずか２～３日の短い時間ではあるが，こうしたことの大切さを少しでも感じ取ったり，農作業を通して食べ物の有り難さを学んでくれたりしている様子は嬉しいものだし，南下浦中の職場体験でも是非いろいろなことを学び，吸収して欲しいと思う。 ○学校になかなか来られない，いわゆる不登校の生徒が何人かいることには心を痛めるところだが，以前とは異なり，「学校に行けるようになればいい」という考え方での指導や対応にこだわらない流れになっているのはよいことだと感じる。とは言え，若い方の引きこもりが問題になっている昨今，そのような生徒を将来社会にどのように参加させるかを考え，探っていくことは大切だと思う。
最終改善方策	○ここ数年，卒業生の進路先が高校進学100%(高等部や連携校等も含む)という現状もあり，キャリア教育に関わる内容が，高校進学に特化したものが中心となっている現状は否めません。その重要性をふまえつつも，職業調べや職場体験など，遠い将来に向けた生き方を考えさせることについて，体験事業所の拡大等も含め，さらに充実・改善を図っていきたいと思います。 ○高校説明会への保護者の方々の参加が年々増えてきており，保護者の皆様の関心も以前にも増して高まっていると考えます。３年生のみならず１・２年生に対しても，昨今の県立高校改革計画や入試制度の変化等に関し，生徒はもちろん保護者にも保護者会，面談，通信類など，随時情報提供を十分に行いながら取組をすすめていきたいと考えています。